

⑥メトホルミン（メルピン、グリコラン）

メトホルミンとは

経口糖尿病薬で、インスリン抵抗性改善薬です。欧米では多嚢胞性卵巣症候群（以下PCOS）に広く使われており、近年日本でも使われてきています。

適応

インスリン抵抗性があるPCOS症例に対して用います。使用前にインスリン抵抗性があるか必ず調べます。インスリン抵抗性がないPCOSには使用しません。大体はクロミッドにメトホルミンを併用して用います。クロミッド単剤では排卵しないPCOSに対して、クロミッドとメトホルミンを併用すると排卵率、妊娠率が上昇する事が報告されています。そのためPCOSに対しては有効な治療法と考えられています。

服用方法

メトホルミンは1錠 250mgです。1日量 500mg(2錠)から開始して、750mg(3錠)として連日使用します（欧米では2000mg程度まで使用しています）。妊婦への影響が不明なので妊娠後には中止します。なおメトホルミンはあくまで糖尿病治療薬であり、PCOSの適応外のため保険はききませんので自費での投与となります。

副作用

下痢、吐き気が多いため事前に十分に説明する必要があります。
また乳酸アシドーシスにも気をつける必要があります。

インスリン抵抗性とは

細胞のインスリン受容体がうまく働かず、インスリンの働きを受け付けなくなった状態を言います。要はインスリンの作用が弱くなっている状態です。インスリン抵抗性はHOMA-Rという指数で判定します。

$HOMA-R = \text{空腹時血中インスリン濃度} \times \text{空腹時血糖} / 405$ 。

HOMA-Rは1.6以下で正常、2.5以上で抵抗性ありと判断されます。